

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170503874		
法人名	株式会社 アクティブ・ケア		
事業所名	グループホーム みのり中の島		
所在地	札幌市豊平区中の島1条3丁目7-3		
自己評価作成日	平成23年12月1日	評価結果市町村受理日	平成24年1月13日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigooho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170503874&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成23年12月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地下鉄中の島駅から徒歩5分程度で、車のない家族や友人が来訪しやすい。敷地内には駐車場も完備しているので自家用車でも安心して来訪が出来る。建物は断熱性に富み窓も大きく明るい。界隈は商店街になっているので、スーパー、理美容室や病院も多くある。そのため買い物はもちろん、個別の理美容の利用や家族が対応出来ない緊急受診も出来る。地域の行事、研修旅行、清掃、新年会、総会などの参加や、毎年の合同食事会などで町内会とは年々交流が深まっている。消防訓練には町内のほぼ全員の役員が参加して下さり、町内会長も地域の消防署に出向くなど、熱心に火災防止に取り組んで下さっている。消防署員からは「町内参加人員が多く地域との交流が深い」と評価を受けている。現在は豊平区消防署員が運営推進会議に参加して下さり、火災に対しての指導を受けたり、参加者が質問し知識を得たりしている。職員は2ユニットどちらの業務でも行えるよう、勤務交換を随時行っている。また、互いの入居者が交流出来るような支援も行っている。役職者の研修は定期的に行われていて、新人研修も段階を踏んで行っている。管理者は職員が意見を言いやすい環境を整えるため、都度様子を伺い出来る限り話しをする機会を作っている。職員の6割は介護福祉士の資格を持ち、今後100%の介護福祉士資格取得に向けて他職員も取り組んでいる。向上心が強い職員の集団をもっていることが「グループホームみのり中の島」の自慢である。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム みのり中の島」は、地下鉄駅から徒歩で5分ほどの近くに位置し、生活に便利な環境である。開設以来5年が経過し、法人の管理指導の下に運営、職員育成も充実しており、ケアの実績を重ねて質の高いサービスを提供している。事業所独自の理念とともに、年度ごとに事業所目標と職員の個人目標を掲げ、実現に向けて確実に取り組まれている。町内会の行事や清掃活動へ参加するとともに、継続して町内会と共催で行っている夏の交流会には地域の一人暮らしの高齢者も参加し、住民と交流する大きなイベントになっている。運営推進会議は活発な意見交換の場になり、避難訓練には町内会役員や住民が役割を担って参加している。また町内会の役員も入った緊急連絡網や近隣から一時避難場所の提供があるなど、災害時の協力関係も築いている。法人の職員育成のシステムやマニュアルが整備されており、管理者・職員用の自己点検シートで拘束につながるような疑わしい言動についても、各自がチェックできる仕組みがある。職員は常により良いケアに向けて、相互に意見を交換しながら利用者の自立面を大切にしている。外出、運動、排泄などを介護計画に載せて個別ケアに取り組み、利用者の個性を活かしながら穏やかに、楽しく過ごせるように、職員は側面から支えている。

V. サービスの成果に関する項目(ずらん館アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(すずらん館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を申し送り時などで定期的に唱和し、全職員が実践につなげている。	地域に溶け込んで利用者の穏やかな暮らしを支える内容の理念を要所に掲げ、申し送り時の唱和で意識化を図っている。住民との交流や行事の企画を通して、利用者が楽しめるような環境を提供している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内行事にはほとんど参加し、地域の一員として日常的に交流をしている。	地域の神社祭りを見学し、町内会の夏祭りや花壇づくりにも参加している。町内会と共催で行っている夏の交流会には地域の一人暮らしの高齢者も参加し、大きなイベントになっている。不定期ではあるが、ボランティア訪問による多種の催しもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内行事に参加、又は利用者と参加することで地域の人々にグループホームを理解してもらっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では月の活動報告を行い、参加している家族、町内会、民生委員、包括職員から意見を聞き話し合い、サービス向上に活かしている。	2ヶ月ごとの運営推進会議では活動報告の他に、避難訓練の実施、夏の交流会の反省など、活発に意見を交換している。消防署職員から専門的なことを学んだり、家族からの意見を取り入れて具体的に取り組んだり、経過を報告したりするなど、有意義な会議の場となっている。家族の参加が多い時もあり、議事録は分かりやすく作成し、全家族に送付している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険課や保護課には、書類提出の際は出向きその都度事業所の実績や取り組みを伝えている。	市や区のグループホーム管理者会に参加し、情報を得ている。市・区担当者との関係を築くために申請書類なども持参し、報告や情報を得る中で利用者の費用軽減で制度的な相談もしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修や研修報告などで拘束に関する知識を深め、正しく理解し拘束のないケアに取り組んでる。	社内の研修や外部研修で、身体拘束の具体的な行為を学び、拘束をしないケアに取り組んでいる。また社内で作成した、管理者・職員用の自己点検シートで拘束につながるような疑わしい言動についても、各自がチェックし把握している。事業所の1階玄関は防犯のためオートロックになっているが、日中は2階、3階のユニット玄関に鍵をかけないで自由な出入りを見守っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内には身体拘束、虐待防止委員会が設置されており、虐待防止に努めていると共に、虐待を見逃ごされることがないように注意を払っている。		

グループホーム みのり中の島

自己評価	外部評価	項目	自己評価(すずらん館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は日常生活自立支援事業や成年後見制度の研修に参加し、報告書などで全職員に周知している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約時には時間をかけ説明を行っている。また不安や疑問点を尋ね、理解、納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者には都度様子を伺うようにしている。家族には来訪時に要望、意見がないか尋ねている。意見等がある場合は、全職員で話し合い運営に反映させている。	毎月発行の「みのり通信」で利用者の暮らしを報告し、家族の来訪時には、ささいな意見をも聴く姿勢で対応している。意見などは連絡帳やケース記録に記載し、介護計画に載せてサービスに反映させている。現在、当事業所の家族アンケートを本所で実施しているところである。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	社内にはグループウェアで自由に意見が述べられるような体制がある。又、定期的な面談で意見が述べられるような場を設け反映させている。	社内の責任者会議資料にスタッフ意見の項目があり、意見を職員が交代でまとめ、それらを取り入れて報告している。毎月のミーティングでケアについて意見を出し合い、サービスに活かしている。管理者との個人面談が年に2回あり、また必要時にはその都度の話し合いを持ち、働きやすいように配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格手当や報酬、査定制度での賞与など、向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修参加の支援をしていると共に、社内の研修委員会主催の研修や学びの会などで、働きながらトレーニングしていくことを進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社外研修の参加を推進したり法人内のグループホーム間で職員の相交換研修を行い、質の向上を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(すずらん館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人と面談を行い、本人の考えや要望などを聞いている。入居後も出来る限り会話をする時間をつくり、安心を確保する関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談では家族が困っていることや不安なことなどを詳しく聞いている。また、来訪時は意見や要望などが無いかを聞き関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の要望や意見をお聞きし、ホームでの支援は勿論、他のサービス利用も視野に入れ、ニーズに添った支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的ではなく、本人ができる事は一緒に参加してもらい、助け合う相互関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	細かな事も家族と相談し、情報を共有しながら本人を支えていくように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、親戚、知人などが、いつでも来訪しやすい雰囲気、環境づくりに努めている。	弁当持参での近所や友人の来訪があった時は、居室で一緒に食事が摂れるように配慮している。電話の取次ぎや手紙をポストに入れるなど、関係が途切れないように支援している。	趣味や関係の再アセスメントを行うことによって、さらに馴染みの人や場との継続的な交流を引き出すような取り組みに期待したい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係や生活などを考慮したうえで、協力して同じ作業を行うなど、支えあう関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(すずらん館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後であっても困ったことなどは相談してほしいと伝えている。また、入院のために退去された方のお見舞いなども行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月一度担当者の意見を基に、一人ひとりの状態を職員全体で話し合い、出来る限り本人の意向に沿えるように努めている。	入居の際、家族にもセンター方式のアセスメントシートに記入してもらい、生活歴・趣味や意向などを介護計画に取り込んでいる。会話が難しい利用者の意向は職員間で情報を交換し対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にセンター方式にて情報の把握に努め、入居後であっても、ご家族との面談の機会を設け情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの為の介護計画に基づき日々ケース記録を詳細に記載し把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	関係者からの意見も取り込み、入居者の希望、健康状態などを考慮した上で職員全員の話し合いにより、介護計画を作成している。	新規介護計画は2週間位で見直し、次いで1ヶ月後、その後は3ヶ月ごとの見直しとしている。担当職員がモニタリングを行い、その資料を基にカンファレンスで意見を交換し、評価を行い、更新計画を作成している。会議に家族が参加することもある。評価表と計画書には家族の同意印をもらっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	連絡ノート、受診、訪問診療ノート等に都度記入し、全職員が分かるようにしている。また申し送り時変化等を伝え合い情報を共有し見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の状況により、通院の同行や送迎など、柔軟に対応している。家族や知人が来訪し、居室で一緒に食事をすることも可能である。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の研修旅行に参加したり、町内会や地域の消防署の協力を得ての避難訓練を行ったりと、安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族の希望を聞き、それぞれ受診や訪問診療で対応している。	利用者の状態や家族の意向に沿い、2ヶ所の協力医療機関の訪問診療が行われている。以前からのかかりつけ医への受診には家族が同行し、その際に情報を提供し、家族から結果を聞いている。医療情報は受診ノートで共有している。	

グループホーム みのり中の島

自己評価	外部評価	項目	自己評価(すずらん館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約をしており、毎週1回看護師が各入居者の健康管理や医療面での相談に対してアドバイスを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が長引く事によるADLの低下を防ぐ為、医師や看護師、ソーシャルワーカーと情報交換や相談等の機会をもち、短期間で退院できるよう必要な支援を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期や重度化に対する方針を定めており、医師、看護師、家族等を交えて話し合いを行っている。	利用開始時に、重度化(主に看取)に関する指針を文書で説明し、同意を得ている。看取りを実施する方向で詳細な看取りケアについての文書を用意しているが、食事が摂れないなど、医療処置が続く場合は主治医や家族と対応を話し合い、現状では入院となっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は札幌市消防局の普通救命講習を受講している。社内の看護師に講師になってもらい緊急時対応の研修を受けて実践力を鍛えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	町内会参加の上で昼夜両面で避難訓練を行っている。緊急連絡先は町内会役員も入っている。運営推進会議においても地域との協力体制を話し合っている。また、天災時の携帯食や避難場所についても話し合っている。	消防署の立会いの下で、日中、夜間を想定した避難訓練を実施しており、いずれも町内会役員も参加し、避難後の見守りの役割を担っている。一時避難場所としての近隣住宅の空き室提供や緊急時連絡網など、協力体制も得られている。緊急時の備品については準備中である。	火災以外の防災について、町内会主催の研修会に参加の予定なので、地域との協力体制づくりの中で災害に備える取り組みに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないように個々に対応している。ケース記録などは他者が見えないように配慮している。	利用者は人生の大先輩であることを、新入社員研修で強く教え、認知症への理解を誤って大切なことを隠したり、慣れ合いになつたりしないように指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の希望や思いを見極め、入居者自身が選択しやすいよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりのペースを大切にし、職員の都合に合わせて事無く、その人らしく過ごして頂くように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人の好みを尊重した支援を行っている。希望を聞いたうえで訪問理美容で、整髪、毛染め、パーマを行っている。また馴染みの理美容室にも通えるよう支援している。		

グループホーム みのり中の島

自己評価	外部評価	項目	自己評価(すずらん館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々に出来る範囲で食事の準備や後片付けを職員と行っている。、誕生会では本人の希望に添った献立を工夫したりしている。	利用者各自の好みを尊重して献立を作り、誕生日には本人の好きなものを用意し、月見、七夕など季節の行事には特別なメニューを出し、時には外食をしたり、すしや弁当などの出前を取ったりなどして食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食分量、水分量を記録し、摂取量の少ない入居者には、声かけし、場合によっては他のものに換えるなど工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、口腔ケアの声かけや見守りをしている。入床時に義歯は洗浄剤につけている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄時間を記録し、トイレまでの間隔が空いている場合や食事、入浴前には声かけや誘導を行っている。	日中は通常の布パンツまたはパットとの併用であり、誘導なしで自発的に排泄する人が大半である。1名は、ほとんど寝たきりから声掛け誘導による排泄までに改善された。トイレ介助では、羞恥心に配慮して、視界に入らない、後ろの位置から手を貸すようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	献立には排便を促す食材を入れたり、毎朝牛乳を摂取して頂くなど便秘予防に心がけている。食後や10時、15時には水分摂取の声かけを行い、1日1,000cc以上摂れるよう努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者の体調に合わせて、臨機応変に対応している。入浴を楽しんでもらえるよう数種類の入浴剤を用意して使用している。	午前中は介助不要の人、午後は介助付きの人が入浴する。中に入浴を億劫がる利用者もいるが、誘導方法や声掛けの工夫で、各人週2回の入浴を実現している。入浴剤を使ったり、浴室内で歌を歌ったりなどして入浴を楽しむ工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動量を多くし、夜間は安眠出来るようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的、副作用について薬ファイルで職員全員が情報を共有している。誤薬防止の為、服薬前にも確認するなどのダブルチェックを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外出を好む入居者は散歩の同行を行い、歌の好きな入居者とは一緒に歌を歌ったり、好きな歌のDVDをかけたりと楽しんでもらえるよう支援している。		

グループホーム みのり中の島

自己評価	外部評価	項目	自己評価(すずらん館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望に応じ、また機能訓練も考え日常的に散歩や買い物に出かけている。	日常的な外出は、近くの公園の散歩や買い物が行われている。ベランダに出るの外気浴は頻繁に行われている。外出の行事は、居酒屋、花見、野外パーティー、紅葉狩りなどで毎月行われている。近くの大きな病院のコンサートの催し物に参加することもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族からの預かり現金を、買い物時に手渡し自分で支払いが出来るよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	家族、友人などに自由に電話が出来、外部からの電話も居室で対応できるよう子機電話を利用している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間のソファでテレビを観たり団欒をしたり、入居者同士がコミュニケーションをとれるように配慮をしている。また季節感を大事に考えて玄関等の装飾を変えている。	リビング兼食堂は広く明るく清潔で、よく管理された室温と湿度で、利用者は心地よく過ごしている。古い時計や家具、畳の小上がりなども、落ち着いてくつろいだ生活を可能にしている。季節に応じた壁の飾り物、楽しい思い出の行事写真など、華やいだ雰囲気づくりにも工夫が凝らされている。トイレや浴室も広くて使い心地が良い。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食席は楽しく食事が取れるよう、また気の合う入居者同士とお話しが出来るようソファの配置を考えて設置している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室入り口に御本人の好みの暖簾をかけ、部屋の中は本人の愛用品や趣味で作られた物等を飾るなど、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	歴史を感じさせる重厚な家具や、昔懐かしい鏡台、かわいげな人形や飾り物などが、よく整理されて配置されている。壁に掛けられた子供や孫の結婚写真などが、楽しい雰囲気を作っている。イス・テーブルやミシンなど、部屋の中で楽しい時間を過ごす道具も配置されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗面台には個別の棚があり、本人の場所が分かりやすくなっている。トイレ内の物入れには各自の名前を入れた必要な物品を入れ、すぐに利用出来るように配慮している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170503874		
法人名	株式会社 アクティブ・ケア		
事業所名	グループホーム みのり中の島		
所在地	札幌市豊平区中の島1条3丁目7-3		
自己評価作成日	平成23年12月1日	評価結果市町村受理日	平成24年1月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「すずらん館 ユニット」に同じ

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170503874&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成23年12月15日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(ひまわり館 アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ひまわり館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を申し送り時などで定期的に唱和し、全職員が実践につなげている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内行事にはほとんど参加し、地域の一員として日常的に交流をしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内行事に参加、又は利用者に参加することで地域の人々にグループホームを理解してもらっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では月の活動報告を行い、参加している家族、町内会、民生委員、包括職員から意見を聞き話し合い、サービス向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険課や保護課には、書類提出の際は出向きその都度事業所の実績や取り組みを伝えている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修や研修報告などで拘束に関する知識を深め、正しく理解し拘束のないケアに取り組んでる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内には身体拘束、虐待防止委員会が設置されており、虐待防止に努めていると共に、虐待を見過ごされることがないように注意を払っている。		

グループホーム みのり中の島

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ひまわり館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は日常生活自立支援事業や成年後見制度の研修に参加し、報告書などで全職員に周知している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約時には時間をかけ説明を行っている。また不安や疑問点を尋ね、理解、納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者には都度様子を伺うようにしている。家族には来訪時に要望、意見がないか尋ねている。意見等がある場合は、全職員で話し合い運営に反映させている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	社内にはグループウェアで自由に意見が述べられるような体制がある。又、定期的な面談で意見が述べられるような場を設け反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格手当や報酬、査定制度での賞与など、向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修参加の支援をしていると共に、社内の研修委員会主催の研修や学びの会などで、働きながらトレーニングしていくことを進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社外研修の参加を推進したり法人内のグループホーム間で職員の相交換研修を行い、質の向上を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ひまわり館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談から本人の気持ちや不安、家族からも話を聞き、入居されてからも会話を出来る時間を作り、何でも話せる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からのお話を十分に傾聴し、来訪しやすい雰囲気を作り、相談や要望を話す事が出来る環境になるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホームの支援のみにこだわらず、他のサービス利用も視野に入れて本人、家族の話を傾聴し希望を見極め、必要な支援を受け入れられるよう対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者にも家事や掃除等、得意分野で助けてもらい、一方的にしてもらうばかりではなくお互いに助け合える関係になるよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に情報を共有し、何か異変があれば家族に伝え、相談しながら本人を支えていくように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望を汲み取り、馴染みの人といつでも電話が出来るよう計らい、来客者を笑顔でお迎えしつつも来訪しやすいホームになるよう努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食席の配置を入居者の人間関係に配慮して変更したり、レクリエーションを取り入れながら、お互いに関わり合い、支え合える関係になるよう努めている。		

グループホーム みのり中の島

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ひまわり館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院などで退居された場合は、お見舞いに行き、ご家族にも相談して頂けるよう声かけしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その都度、ケアカンファレンスを行い、一人ひとりの状態を話し合い介護計画の見直しを行っている。出来るだけ本人の意向に沿えるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にセンター方式からの情報や入居後の会話や仕草などからも暮らしぶりの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、一人ひとりの一日の過ごし方を観察見守りし、ケース記録に記載し、スタッフ全員が把握出来るよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居時から、家族からの情報や意向、本人の希望をもとにアセスメントを実施し、3ヶ月の期間で評価できるよう具体的な短期目標が書かれた介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に日々の生活を記載し、食事量や排泄、体調の変化を申し送り、職員間で共有しながら実践や介護計画の見直しに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて、受診の送迎などに対応している。また1階のデイサービスと合同で行事を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で行っているレクリエーションや町内会の行事に参加できるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望により月に2回、提携クリニックの訪問診療を受けている。突発的な体調の異変に対しては往診により緊急対応をしてもらっている。		

グループホーム みのり中の島

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ひまわり館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は訪問看護師の来訪時には、入居者の状態を伝え対応方法を相談しながら健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	職員はお見舞いに行き入居者の現状の把握をし、医師や家族と相談のもと帰館時からの支援が出来るよう準備をしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時にホームとしての「看取りや重度化に関する指針」を文書で提示している。本人や家族の意向は入居時に確認し重度化した際は方針を共有できるようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内に研修委員会があり、札幌市消防局による普通救命講習を職員が受講している。また、社内の看護師が講師の緊急時対応の研修を受け実践力を鍛えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	町内会役員も入っている緊急連絡先を活用し町内会参加のもとで昼夜両面で消防訓練をしている。運営推進会議では火災に限らず地震、水害時の災害にむけた地域との協力体制の話し合いをしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した声かけや対応に努めている。面会簿は単独にし、個別の情報にはドアが付いて見えないところに保管されている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	朝の洋服選びやサラダにかけるドレッシング等を選んで貰ったり、外出や行事に参加するかどうか一人一人に尋ねるなど、自分で決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	天気が良い日などは、散歩や買い物などの声かけをしたり、好きなことや得意なことが出来るような環境作りを行い、個々の状態に配慮し希望に添えるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容を利用し、入居者本人の好みの髪型にしてもらっている。同じ洋服ばかり着ている時には、他の物をさり気なく勧めたり、外出時や希望時にはお化粧品やマニキュアを楽しんでもらえるよう支援している。		

グループホーム みのり中の島

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ひまわり館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に料理本を見たり食べたい物を聞き、献立を作る際の参考にしている。また配膳や下膳はできるだけ各自でしてもらい、食事の支度や片付けも職員と行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	記録に各自の水分量や食事を残し、状態の把握に努めている。食事の食べやすさにも考慮し、本人に確認し食べやすい大きさに切ったり魚の骨を取ったりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯みがきの声かけや介助を行い、口腔内に異常がある時は、訪問歯科に連絡し治療につなげている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中帯は出来るだけ布パンツを使用して貰い、排泄チェック表を活用し入居者の排泄感覚を把握して必要時にトイレ誘導をしている。トイレ内も見守りが必要な入居者に対しては、できないところだけを介助するように心がけている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や食物繊維の多い食事の提供や、お茶やカルピス、ジュース等の提供により水分管理に努めている。また入居者に応じた運動を取り入れ自力排泄できるような環境整備に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるよう、時間帯や曜日を工夫している。体調や気分に応じて入浴日を変更する等、臨機応変に対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はなるべく活動的に過ごして頂けるよう、スタッフと作業をしたりレクを楽しめるよう声かけし、傾眠の強い際は居室で適度に休んで頂く等、その時々に応じて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が新しく処方されるごとに必ず説明書を読み、作用や副作用について確認している。薬の変更があった場合は専用ノートに記載し、服薬後症状に異常がある時はドクターに連絡し指示を受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	縫い物、食事の支度、掃除、食器洗い、洗濯物量等の役割支援や、貼り絵、合唱、DVD鑑賞、おやつ作り、塗り絵、ゲーム等の趣味支援、外出行事支援などを工夫している。		

グループホーム みのり中の島

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ひまわり館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望や天候、体調に応じて近隣の散歩や買い物等を行っている。普段行けないような日帰りの町内バス旅行は、希望する入居者に職員が同行し参加している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金をある程度自己管理している方や、職員が買い物に同行し支払いをするまでの過程を見守りする方など、入居者の状態に応じて支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望時に、相手に対する時間帯も考慮しつつ電話を取り次ぎ、人目を気にせず話がしやすいよう子機を使い居室で話してもらっている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビは見えていない時はこまめに消し、付けっぱなしになることのないように心がけている。共用部分は季節に合わせて飾り付けを変えている。時々好みの音楽やDVDをかけるようにし、メリハリをつけている。定期的に温湿度を確認し、いつも快適な状態になるよう温度と湿度の調整を心がけている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食席を気の合う入居者同士になるようにしたり、希望があった際はその都度席替えをするようにしている。ソファやテーブルの配置を過ごしやすいよう、その時に応じて配置換えをしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みのある家具や道具を持ってきてもらい、その都度使いやすいように本人や家族と相談しながら置き場所を変えたり、ホームで撮った写真を飾ったりしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、浴室に手すりを設置。入浴時には浴槽や洗い場に滑り止めマットを使用している。また、車椅子利用者が自操できるよう、通りやすいスペースを確保している。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム みのり中の島

作成日：平成 24年 1月 12日

市町村受理日：平成 24年 1月 13日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	火災に対する避難訓練は年2回実施しており、研修も参加しているが、地震や水害等の天災に対しては、避難場所の確認はしているが、研修等に参加していないため、知識に乏しい。	研修等に参加し、全職員がどんな時でも対応できる知識を得る。	地区連の防火セミナーに参加予定(9月)。避難場所や準備する備品の確認をする。また、それまでの間に研修機会があれば積極的に参加する。	9ヶ月
2	20	趣味や馴染みの人や場に対するアセスメントが足りない。	趣味や馴染みの人、場との継続的な交流や新たな趣味、人間関係を引き出す。	本人や家族、馴染みの人から昔行っていた趣味や馴染みの場、長年の習慣や好みを詳しく聞くことにより、本人が目標とする生活を専門的観点から導き出していく。具体的な目標に対し継続的にモニタリングを実施して新たな趣味や人間関係を築いていく事を支援する。	1年
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。